

私と後志報恩会

Think ! IT で
元気をサポート



ぶれない人生

2011 年 4 月 16 日

株式会社シンクシステムズ 小椋俊秀

昨日、社会福祉法人後志報恩会の創設者である野村健さんのお通夜に出席してきました。野村さんは 37 才の時に勤めていた札幌市役所をやめ、銀山学園を創設し、以後 40 年（前職の市役所時代も含めると約 55 年）福祉に携わってきた方です。

お坊さんがお経のあと、野村さんは福祉一筋というぶれない人生を送った人であり哲学者であった、との話がありました。福祉一筋といっても高尚な理想だけを掲げるのではなく、まずは隣の人の尊厳を守ることから実行したとのお話でした。銀山学園は知的障がいを持った成人の方の施設ですが、野村さんは、施設は利用者が主役であると常々おっしゃっていたそうです。

また、葬儀委員長である現在の後志報恩会理事長、山崎忠顕さんのお話では、現在の後志報恩会は事業も多岐にわたり施設数も増え、職員も増えてきたが、野村さんの思い・理念が脈々と続いているとのことでした。

私は 30 年ほど前から銀山学園さんとお付き合いさせていただいてますが、銀山学園さん、後志報恩会さんの組織の変化・成長とそこに変わらずに流れている思い・理念を感じます。組織は時代にあわせ変革していく必要があります。

その変革の中心は組織に属する個人個人が変わっていくことです。個人が変革していくには、その動機の根っこに共通の思い・理念が必要です。思い・理念を今の時代にならえしていくために、その時代にあうよう自分そして組織を変革する必要があります。

野村さんは 80 才でお亡くなりになりましたが、その福祉一筋のぶれない人生には、誰もが立派な人生だったと思うでしょう。